

# 小麦の生育が早まっています！ 赤かび病防除と実肥の準備を始めましょう

発行：京都府中丹西農業改良普及センター

発行日：令和2年3月19日

暖冬の影響により生育が前進しています。3月中旬時点で幼穂が4cmに達しているほ場（平場、11月上旬播種）もあり、暖冬で生育が早かった昨年よりも生育が早まっているとみられます。

近畿地方の1か月予報では、向こう1か月の平均気温が高い見込みであり、赤かび病防除や実肥の適期も早まる見込みです。**適期を逃さずに防除と実肥施用を行えるよう、早めに準備を始めましょう。**

## 赤かび病防除

- 赤かび病が発生すると出荷停止となる場合もあるので、必ず防除を行いましょう。
- 防除は2回行います。**1回目の防除は特に重要**です。防除時期は、ほ場で小麦の生育状況をよく観察しながら、適期防除を行ってください。  
**1回目** 開花始め（出穂期※の7～10日後）  
※出穂期…ほ場全体の40～50%が出穂した日  
**2回目** 1回目防除の7日後
- 農薬については、栽培こよみをご参照ください。

## 実肥施用

- タンパク質含有率を向上させるため、開花期の追肥（実肥）が必要です。
- 実肥の方法は葉面散布と土壌表層施肥の2通りあり、次のように行います。  
**葉面散布** 尿素の葉面散布（6.5 kg/100 L/10 a×2回）  
**土壌表層施肥** 硫安（29 kg/10 a） 又は 塩安（24 kg/10 a）
- 施用時期は、葉面散布の場合は赤かび病防除と同時に、土壌表層施肥の場合は赤かび防除の1回目と2回目の間に行ってください。

ほ場が排水不良だと根が弱り、生育全体に悪影響を及ぼします。排水不良のほ場で小麦が低温に遭遇すると、凍霜害の危険性も高まると考えられます。

排水溝の点検を行い、溝上げ等により**引き続き排水対策を徹底**しましょう。